

大阪医科大学学報

第47号 平成13年2月



「春よ来い 早く来い」

◆目 次◆

規程関係	2~3
人事	〔法人、採用、退職、 昇任・異動、委嘱・解嘱、 海外渡航〕
計報	6
叙勲について	6
寄附金	7
学位記授与	8~9
文部省補助金関係	10
助成金の決定について	10
国際交流シンポジウム開催	11
医学会秋季学術講演会	11
職場紹介	12~13
医学の散歩道	14
海外出張記	15~16
教職員の受賞について	16
学内行事	17
会議・行事予定	18~19
保健管理室からのお知らせ	20~22
俳句	23
お詫びと訂正	23

規程関係

大阪医科大学附属看護専門学校学則の一部改正について

大阪医科大学附属看護専門学校学則が次の通り改正されました。

■大阪医科大学附属看護専門学校学則（関係条文新旧対照表）

新		旧																																																																																																																																			
<p>第8条（授業科目並びに単位数及び授業時間数） 本校の授業科目並びに単位数及び授業時間数は、別表1-1および1-2のとおりとする。</p>		<p>第8条（授業科目並びに単位数及び授業時間数） 本校の授業科目並びに単位数及び授業時間数は、別表1-1および1-2のとおりとする。</p>																																																																																																																																			
<p>附 則 この改正は、平成13年4月1日から施行する。 ただし、平成12年度以前から在学する者については、改正後の第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。</p>																																																																																																																																					
<p>別表1-2 第二看護学科授業科目及び単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">教育内容</th> <th rowspan="2">授 業 科 目</th> <th rowspan="2">卒業単位数</th> <th colspan="3">学年及び単位数(時間数)</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎分野</td> <td rowspan="2">科学的思考の基盤</td> <td>論理的思考(含演習)</td> <td rowspan="4">8</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(45)</td> </tr> <tr> <td>情報科学(含演習)</td> <td></td> <td>1</td> <td>1(45)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人間と人間生活の理解</td> <td>外国語(英語)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2(75)</td> </tr> <tr> <td>家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1(30) 1(30) 1(45) 1(45)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">専門基礎分野</td> <td rowspan="2">人体の構造と機能</td> <td>解剖生理学</td> <td rowspan="4">14</td> <td>2</td> <td></td> <td>2(60)</td> </tr> <tr> <td>生化学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">疾病の成り立ちと回復の促進</td> <td>病理学</td> <td>5</td> <td></td> <td>5(135)</td> </tr> <tr> <td>微生物学 薬理学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1(30) 1(30)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会福祉分野</td> <td rowspan="3">社会保障制度と生活者の健康</td> <td>保健医療論</td> <td rowspan="3">1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td>社会福祉関係法規</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> </tbody> </table>		区分	教育内容	授 業 科 目	卒業単位数	学年及び単位数(時間数)			1年	2年	計	基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考(含演習)	8	1		1(45)	情報科学(含演習)		1	1(45)	人間と人間生活の理解	外国語(英語)	1	1	2(75)	家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)	1	1	1(30) 1(30) 1(45) 1(45)	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	14	2		2(60)	生化学	1		1(15)	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	5		5(135)	微生物学 薬理学	1	1	1(30) 1(30)	社会福祉分野	社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	1		1	1(15)	公衆衛生学	1		1(15)	社会福祉関係法規	1		1(15)	<p>別表1-2 第二看護学科授業科目及び単位数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">教育内容</th> <th rowspan="2">授 業 科 目</th> <th rowspan="2">卒業単位数</th> <th colspan="3">学年及び単位数(時間数)</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">基礎分野</td> <td rowspan="2">科学的思考の基盤</td> <td>論理的思考(含演習)</td> <td rowspan="4">8</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(45)</td> </tr> <tr> <td>情報科学(含演習)</td> <td></td> <td>1</td> <td>1(45)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人間と人間生活の理解</td> <td>外国語(英語)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2(75)</td> </tr> <tr> <td>家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1(30) 1(30) 1(45) 1(45)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">専門基礎分野</td> <td rowspan="2">人体の構造と機能</td> <td>解剖生理学</td> <td rowspan="4">14</td> <td>2</td> <td></td> <td>2(60)</td> </tr> <tr> <td>生化学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">疾病の成り立ちと回復の促進</td> <td>病理学</td> <td>5</td> <td></td> <td>5(135)</td> </tr> <tr> <td>微生物学 薬理学</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1(30) 1(30)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会福祉分野</td> <td rowspan="3">社会保障制度と生活者の健康</td> <td>保健医療論</td> <td rowspan="3">1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td>公衆衛生学</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> <tr> <td>社会福祉関係法規</td> <td>1</td> <td></td> <td>1(15)</td> </tr> </tbody> </table>		区分	教育内容	授 業 科 目	卒業単位数	学年及び単位数(時間数)			1年	2年	計	基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考(含演習)	8	1		1(45)	情報科学(含演習)		1	1(45)	人間と人間生活の理解	外国語(英語)	1	1	2(75)	家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)	1	1	1(30) 1(30) 1(45) 1(45)	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	14	2		2(60)	生化学	1		1(15)	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	5		5(135)	微生物学 薬理学	1	1	1(30) 1(30)	社会福祉分野	社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	1		1	1(15)	公衆衛生学	1		1(15)	社会福祉関係法規	1		1(15)
区分	教育内容					授 業 科 目	卒業単位数	学年及び単位数(時間数)																																																																																																																													
		1年	2年	計																																																																																																																																	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考(含演習)	8	1		1(45)																																																																																																																															
		情報科学(含演習)			1	1(45)																																																																																																																															
	人間と人間生活の理解	外国語(英語)		1	1	2(75)																																																																																																																															
		家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)		1	1	1(30) 1(30) 1(45) 1(45)																																																																																																																															
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	14	2		2(60)																																																																																																																															
		生化学		1		1(15)																																																																																																																															
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学		5		5(135)																																																																																																																															
		微生物学 薬理学		1	1	1(30) 1(30)																																																																																																																															
社会福祉分野	社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	1		1	1(15)																																																																																																																															
		公衆衛生学		1		1(15)																																																																																																																															
		社会福祉関係法規		1		1(15)																																																																																																																															
区分	教育内容	授 業 科 目	卒業単位数	学年及び単位数(時間数)																																																																																																																																	
				1年	2年	計																																																																																																																															
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考(含演習)	8	1		1(45)																																																																																																																															
		情報科学(含演習)			1	1(45)																																																																																																																															
	人間と人間生活の理解	外国語(英語)		1	1	2(75)																																																																																																																															
		家族社会学 教育学 人間関係の心理学(含演習) スポーツと健康(含実技)		1	1	1(30) 1(30) 1(45) 1(45)																																																																																																																															
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	14	2		2(60)																																																																																																																															
		生化学		1		1(15)																																																																																																																															
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学		5		5(135)																																																																																																																															
		微生物学 薬理学		1	1	1(30) 1(30)																																																																																																																															
社会福祉分野	社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	1		1	1(15)																																																																																																																															
		公衆衛生学		1		1(15)																																																																																																																															
		社会福祉関係法規		1		1(15)																																																																																																																															

新					旧						
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	1	1	2 (45)	基礎看護学	看護学概論	1	1	2 (45)	
		基礎看護技術	3		3 (75)		基礎看護技術	3		3 (75)	
		看護方法総論	2		2 (60)		看護方法総論	2		2 (60)	
	在宅看護論	在宅看護論概論	1		1 (15)	在宅看護論	在宅看護論概論	1		1 (15)	
		在宅看護方法		2	2 (60)		在宅看護方法		2	2 (60)	
	成人看護学	成人看護学概論	1		1 (30)	成人看護学	成人看護学概論	1		1 (30)	
		成人看護方法	<u>1</u>	<u>4</u>	5 (135)		成人看護方法	<u>2</u>	<u>3</u>	5 (135)	
	老年看護学	老年看護学概論	1		1 (15)	老年看護学	老年看護学概論	1		1 (15)	
		老年看護方法	1	1	2 (45)		老年看護方法	1	1	2 (45)	
	小児看護学	小児看護学概論	1		1 (15)	小児看護学	小児看護学概論	1		1 (15)	
小児看護方法		<u>—</u>	<u>2</u>	2 (60)	小児看護方法		<u>1</u>	<u>1</u>	2 (60)		
母性看護学	母性看護学概論	1		1 (15)	母性看護学	母性看護学概論	1		1 (15)		
	母性看護方法	1	1	2 (60)		母性看護方法	1	1	2 (60)		
精神看護学	精神看護学概論	1		1 (15)	精神看護学	精神看護学概論	1		1 (15)		
	精神看護方法	1	1	2 (45)		精神看護方法	1	1	2 (45)		
看護研究		1	1	2 (60)	看護研究		1	1	2 (60)		
臨地実習	基礎看護学 在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	3		3 (135)	臨地実習	基礎看護学 在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	3		3 (135)		
			2	2 (90)				2	2 (90)		
		3		3 (135)				3	3 (135)		
			2	2 (90)				2	2 (90)		
			2	2 (90)				2	2 (90)		
			2	2 (90)				2	2 (90)		
			2	2 (90)				2	2 (90)		
合計		68	<u>38</u>	<u>30</u>	68 (2115)	合計		68	<u>40</u>	<u>28</u>	68 (2115)

学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について
 学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程が本年1月1日付で次の通り改正されました。

第4条 「副主幹、主任、」の次に「主事、」を加える。

人 事

法人

施設計画事業本部（跡地利用部門）責任者

1.16 理事 東 郁郎

施設計画事業本部（跡地利用部門）副責任者

1.16 理事・病院長・教授

植木 實（産婦人科学）

施設計画事業本部（跡地利用部門）担当

1.16 学生部長・教授 阿部 宗昭（整形外科学）

〃 副院長・教授 竹中 洋（耳鼻咽喉科学）

〃 理事・看護専門学校長

勢川瑠美子（附属看護専門学校）

〃 看護部長 神谷美佐子（病院看護部）

〃 病院事務部長代理 橋口 直栄（病院事務部）

〃 施設事業本部長代理

岩本 暢泰（病院医療情報部）

〃 企画課長 成松 正治（総務部）

採用

11.1 契約職員 西口 恵子（栄養給食課）

〃 〃 吉川 正子（ 〃 ）

1.1 助 手 八木 搖一（形成外科学）

〃 〃 藤田 千裕（神経精神医学）

〃 〃 堀 貴晴（ 〃 ）

1.16 助 手 森 龍彦（内科学Ⅲ）

〃 技術員 池田 陽子（病院薬剤部）

2.1 助 手 大原 英嗣（整形外科学）

〃 〃 萱澤 正伸（附属病院）

〃 〃 清水 祥子（麻酔科学）

〃 看護婦 吉村ゆかり（病院看護部）

〃 契約職員 瀬尾 洋子（栄養給食課）

〃 〃 増田美和子（ 〃 ）

退職

11.11 用 務 員 上杉 幸子（栄養給食課）

11.30 助 手 青木 淳（脳神経外科学）

12.31 〃 田中 聡（形成外科学）

〃 学内講師 喜多野郁夫（生理学Ⅱ）

〃 講 師 岡村 武彦（神経精神医学）

〃 〃 三宅 裕治（脳神経外科学）

〃 学内講師 久保田次郎（内科学Ⅲ）

〃 助手(外国人教員) 園田 豊興（一般・消化器外科学）

〃 看護婦 中西久美子（病院看護部）

1.12 (逝去) 教 授 田嶋 定夫（形成外科学）

1.26 短時間雇用職員 藤本 暁子（産婦人科）

1.30 (逝去) 用 務 員 下村 シヅエ（栄養給食課）

1.31 助 手 森川 浩志（内科学Ⅱ）

〃 〃 岡本 雅雄（整形外科学）

1.31 技術員 矢守 好美（輸血室）

〃 契約職員 寺本 健一（栄養給食課）

昇任・異動

【昇任】

11.16 内科学Ⅱ 助教授 平田 一郎（診療助教授）

12.1 病院薬剤部長付課長 安藤 陽子（病院薬剤部長付課長代理）

〃 病院薬剤部長付副主幹

北川 俊史（病院薬剤部長付主任）

〃 病院薬剤部長付副主幹

鈴木 薫（病院薬剤部長付主任）

〃 病院薬剤部長付主任 久島さゆり（病院薬剤部長付技術員）

〃 中央検査部技師長 村上 澄子（技師長代理）

〃 総務部総務課主幹（保安担当）

中村 高荘（総務課課長補佐）

〃 放射線科技術主任 山田 満（技術員）

〃 〃 吉川 秀司（技術員）

〃 〃 林 万寿夫（技術員）

1.1 病理学Ⅰ講師 成山 硬（学内講師）

【異動】

11.30 総務部財務課兼務を解く

足立 恵美（研究協力室兼財務課事務員）

12.1 中央検査部担当技師長（情報担当）

儀賀 久良（技師長）

〃 病院薬剤部長付副主幹

桑村 賀子（病院薬剤部長付課長補佐）

〃 総務部研究協力室事務員

貝路 由紀（総務課事務員）

〃 総務部財務課事務員

濱田 恵子（附属看護専門学校事務員）

2.1 内科学Ⅱ 助手 有坂 好史（附属病院）

〃 附属病院 助手 中嶋 秀人（内科学Ⅰ）

〃 エイズ調査室副室長

助 手 松尾 雄二（輸血室長補佐 助手）

〃 輸血室兼内科学

助 手 岩尾 憲明（附属病院助手）

委嘱・解嘱

【委嘱】

保健管理室運営委員会委員

10.16 診療助教授 平田 一郎（内科Ⅱ）

平成11、12年度機器共同利用センター運営委員会委員

11.1 学内講師 亀谷 英輝（産婦人科学）

「良医育成体制の在り方；臨床の視点より」委員会委員

11.8 教 授 池田 恒彦（眼科学）

バイオセーフティ実験室管理責任者

11.8 講 師 後藤 俊幸（微生物学）

人工腎臓センター長

12.1 教 授 勝岡 洋治 (泌尿器科学)

自己点検・評価組織委員会小委員会 (附属病院部会) 委員

12.4 看護副部長 小野恵美子 (病院看護部)

〃 病院薬剤部長付課長 安藤 陽子 (病院薬剤部)

〃 病院サービスク主任 岩橋 朗 (病院事務部)

12.20 助 教 授 中川 俊正 (病態検査学)

〃 講 師 大坂 直文 (病院医療情報部)

附属病院副院長 (管理担当)

12.5 附属病院副院長・教授

植林 勇 (放射線医学)

附属病院副院長 (企画担当)

12.5 附属病院副院長・教授

竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)

救急医療部担当教授選考委員会委員

12.26 教 授 北浦 泰 (内科学Ⅲ)

〃 〃 谷川 允彦 (一般・消化器外科学)

〃 〃 佐々木進次郎 (胸部外科学)

〃 〃 森 秀磨 (麻酔科学)

〃 〃 阿部 宗昭 (整形外科)

〃 診療助教授 出口 寛文 (内科学Ⅲ)

〃 〃 近藤敬一郎 (胸部外科学)

〃 講 師 川上 万平 (〃)

〃 学内講師 坂根 貞樹 (内科学Ⅰ)

〃 助 手 星賀 正明 (〃)

〃 〃 森信 孝雄 (周産期センター)

救急医療部担当教授選考委員会委員長

12.26 教 授 佐々木進次郎 (胸部外科学)

客員教授

1. 1 富士原 彰

OSCE実行委員会委員

1. 1 講 師 林 哲也 (内科学Ⅲ)

〃 〃 竹内 栄一 (脳神経外科学)

外科系OSCE委員会委員

1. 1 講 師 竹内 栄一 (脳神経外科学)

学内講師

1.16 助 手 南 敏明 (麻酔科学)

〃 〃 有吉 靖則 (口腔外科学)

2. 1 〃 浮村 聡 (内科学Ⅲ)

〃 〃 酒井 泰彦 (〃)

臨床治験センター運営委員会委員

1.15 臨床治験センター長

副院長・教授 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)

〃 臨床治験副センター長

教 授 玉井 浩 (小児科学)

1.15 教 授 佐野 浩一 (微生物学)

〃 〃 花房 俊昭 (内科学Ⅰ)

〃 〃 池田 恒彦 (眼科学)

〃 助 教 授 黒田 健治 (神経精神医学)

〃 講 師 中島 幹雄 (整形外科)

〃 〃 大坂 直文 (病院医療情報部)

〃 学内講師 瀧内比呂也 (内科学Ⅱ)

〃 助 手 鈴木 俊明 (泌尿器科学)

〃 病院事務部長代理 橋口 直栄 (病院事務部)

〃 看護副部長 富成よし子 (病院看護部)

〃 技 師 長 竹内 正保 (放射線科)

〃 〃 村上 澄子 (中央検査部)

〃 病院薬剤部長付技術員

井尻 好雄 (病院薬剤部)

輸血室長

2. 1 教 授 花房 俊昭 (内科学Ⅰ)

エイズ調査室長

2. 1 教 授 玉井 浩 (小児科学)

【 解 嘱 】

バイオセーフティ実験室管理責任者

11. 7 教 授 佐野 浩一 (微生物学)

輸血室長

1.31 教 授 勝 健一 (内科学Ⅱ)

海外渡航

11.11～11.18 アメリカ (ダラス)

星賀 正明 (内科学Ⅰ助手)

11.11～11.18 アメリカ (ニューオリンズ)

林 哲也 (内科学Ⅲ講師)

11.12～11.16 韓国 (ソウル)

田中 源重 (麻酔科学講師)

11.12～11.18 アメリカ (ニューオリンズ)

佐々木進次郎 (胸部外科学教授)

堀本 仁士 (〃 助手)

11.12～11.19 アメリカ (ニューオリンズ)

諏訪 道博 (内科学Ⅲ講師)

11.15～11.19 アメリカ (デューク大学)

山本 隆一 (病院医療情報部助教授)

11.15～11.20 アメリカ (アナハイム)

中川 俊正 (病態検査学助教授)

11.15～11.20 アメリカ (マウイ)

清水 一弘 (眼科学講師)

11.16～11.20 アメリカ (オランダ)

瀧内比呂也 (内科学Ⅱ学内講師)

11.18～11.23 ベトナム (ホーチミン)

佐野 浩一 (微生物学教授)

人事 訃報 叙勲について

11.25～11.30	アメリカ (シカゴ) 小森 剛 (放射線医学助手)	12.13～12.20	アメリカ (ホノルル) 林 秀行 (医化学助教授)
11.26～12. 1	アメリカ (シカゴ) 宇都宮啓太 (放射線医学講師) 雑賀 良典 () 山本 和宏 () 助手)	1. 7～ 1.15	アメリカ (オーランド) 増田 剛 (病院医療情報部助手)
11.27～12. 3	オーストラリア (ヴィクトリア) 稲森 耕平 (麻醉科学診療助教授)	1.10～ 1.15	アメリカ (ベセスダ) 山本 隆一 (病院医療情報部助教授)
11.28～12. 6	シンガポール 平松 昌子 (一般・消化器外科学内講師)	1.17～ 1.26	モナコ (モンテカルロ) 西村 光 (内科学Ⅲ講師)
12. 3～12. 8	タイ (バンコク) 黒田 健治 (神経精神医学助教授) 江村 成就 () 助手)	1.27～ 1.31	モナコ (モンテカルロ) 瀧内比呂也 (内科学Ⅱ学内講師)
12. 3～12. 5	アメリカ (テキサス)	1.28～ 2. 2	オーストラリア (メルボルン) 猪俣 泰典 (放射線医学助教授)
12. 6～12.10	スウェーデン (ストックホルム) 山本 隆一 (病院医療情報部助教授)		高橋 正嗣 () 助手)

訃報

本学名誉教授の上田巖夫先生 (88才) が、去る12月25日 (月) ご自宅にて逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

病院事務部栄養給食課用務員の下村シヅエ様 (53才) が、去る1月30日 (火) 逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報



本学形成外科学教授の田嶋定夫先生 (62才) が、去る1月12日 (金) 午後5時55分本学附属病院にて呼吸不全のため逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

なお、田嶋定夫教授を偲ぶ会が形成外科学医局、同門会、教授会の協賛により3月17日 (土) 臨床第1講堂において開催される予定です。

■叙勲について



小野克己名誉教授
勲四等旭日小綬賞

平成12年「秋の叙勲」で、永年の医学・歯学界への貢献に対し、小野克己名誉教授が、勲四等旭日小綬賞を受章されました。

■本学附属病院新総合棟建築事業に係る寄附金の応募状況について

項目 区分	寄附金	
	件数	総額(円)
本法人役員・評議員	5	2,900,000
教職員	16	1,315,000
仁泉会会員	99	22,610,000
白友会会員	52	2,548,000
学生保護者	3	700,000
法人等(個人、一般含む)その他	62	58,639,481
計	237	88,712,481

平成12年12月31日現在

〈寄附金申込者〉

平成12年10月1日から12月31日までの間に寄附金申込者は、11件、金額 4,915,000円です。
ここに寄附金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○法人役員 1件、金額100,000円

國澤 隆雄

○教職員 2件、金額40,000円

大槻 哲彦、門田 雅人

○仁泉会会員 2件、金額400,000円

鉤 スミ子、小川 博正

○白友会会員 1件、金額25,000円

小野 武子

○学生保護者 1件、金額100,000円

土井 秀美

○法人等(個人、一般含む)その他 4件、金額4,250,000円

寄附者

代表者

有限会社すばる印刷

代表取締役

野村 昌男

株式会社ティエムシー

代表取締役

藤田 和子

東洋美工株式会社

代表取締役

藤川正一郎

須賀工業株式会社大阪支店

常務取締役支社長

神木 宣夫

寄附金募集期間 平成13年12月末日まで

※税法上の優遇措置が受けられます。

募集対象 本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、一般個人及び法人
寄附金額 個人1口10万円、法人1口50万円 但し、1口未満の金額でもお受けいたします。
問い合わせ先 大阪医科大学事業推進室 TEL0726-84-6344

寄附金募集についてのお願い

本学附属病院新総合棟建築事業に係る寄附金の募集につきましては、既に本法人の役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、関係企業等にご支援をお願いし、御協力をいただいておりますが、残念ながら目標額に達していません。

つきましては、皆様方におかれましても諸費多端の折、誠に恐縮に存じますが、何卒ご事情ご賢察くださいます、寄附のご支援を賜わりたく全学あげてお願い申し上げる次第でございます。

学位記授与

■平成12年度（第Ⅱ回）学位記授与

平成12年度第Ⅱ回学位審査には、大学院医学研究科修了による者および論文提出による者の申請があり所定の審査が行われました。

その結果、平成12年12月6日をもって17名が合格し、12月8日(金)午後2時から第2会議室において学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第603号	湯田 淳	Angiotensin II receptor antagonist, L-158,809, Prevents intimal hyperplasia in dog grafted veins (アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬、L-158,809はイヌ静脈グラフトにおける内膜肥厚を抑制する)
甲第604号	年名 謙	Enprostil, a prostaglandin-E₂ analogue, inhibits interleukin-8 production of human colonic epithelial cell lines (Enprostil (prostaglandin-E ₂ 誘導体) によるヒト大腸上皮培養細胞株のinterleukin-8 産生能抑制に関する検討)
乙第882号	呉 紅	Contrast-enhanced immunoelectron microscopy for <i>Helicobacter pylori</i> (<i>Helicobacter pylori</i> 用の免疫電子顕微鏡コントラスト増強法の開発)
乙第883号	小林 正人	Determination of optimal conditions for the immobilization of cells in a cell capture enzyme immunoassay (CC-EIA) by a simple Giemsa assay (酵素免疫法における細胞固相化条件の簡易ギムザ法による検討)
乙第884号	松山 南律	Ischemic But Not Pharmacological Preconditioning Requires Protein Synthesis (短時間心筋虚血再灌流による非薬物的心筋保護効果には蛋白質合成が必要である)
乙第885号	小宗 弘幸	Blowout fracture骨折部に絞扼された外眼筋に擬した動物モデルの実験的研究
乙第886号	大谷 昌裕	Impact of the expression of cyclin-dependent kinase inhibitor p27^{Kip1} and apoptosis in tumor cells on the overall survival of patients with non-early stage gastric carcinoma (進行胃癌患者予後因子としての異癌細胞のサイクリン依存性キナーゼインヒビターp27 ^{Kip1} 発現およびアポトーシス誘導能についての検討)
乙第887号	中尾 圭一	The synergistic effects of hyperthermia and anticancer drugs on induction of apoptosis (アポトーシス誘導における温熱療法と抗癌剤との相乗効果について)
乙第888号	野原 丈裕	Expression of Cell-Cycle Regulator p27 is Correlated to the Prognosis and ER Expression in Breast Carcinoma Patients (細胞周期抑制因子p27発現は乳癌患者の予後とエストロゲンレセプター発現に關与する)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第889号	西嶋 明	アルコール性骨粗鬆症の発生機序 —エンドトキシン血症の関与—
乙第890号	田中慶太郎	Expression of <i>survivin</i> and its relationship to loss of apoptosis in breast carcinomas (乳癌におけるサバイビンの発現とアポトーシス活性の低下との関係)
乙第891号	大場 創介	頬骨骨折における眼窩拡大量と眼球位置の変化に関する解析 —blowout fractureとの比較を含めて—
乙第892号	大宮 由香	Complex Craniosynostosisに対する頭蓋顔面前方移動術の術前後における中顔面の発育と気道に関する臨床的検討
乙第893号	田中 聡	Complex Craniosynostosisにおける前頭蓋底を中心とした発育の検討 —Le Fort IV minus glabellar osteotomyの術前・術後の解析—
乙第894号	有吉 靖則	舌癌のDynamic Enhanced MRIに関する臨床的研究
乙第895号	宮崎 彩子	Two Novel Hemoglobin Variants : Hb Sagami [β 139 Asn \rightarrow Thr] and Hb Niigata [β 1 Val \rightarrow Met-Leu] (2種の新規異常ヘモグロビン：Hb Sagami [β 139 Asn \rightarrow Thr] と Hb Niigata [β 1 Val \rightarrow Met-Leu])
乙第896号	岩垣 明隆	Influence of synthetic antiendotoxin peptides on lipopolysaccharide (LPS) recognition and LPS-induced proinflammatory cytokine responses by cells expressing membrane-bound CD14 (抗エンドトキシン合成ペプチドの膜結合型CD14発現細胞によるLPS認識とLPS惹起性炎症性サイトカインへの影響)

文部省補助金関係 助成金の決定について

■平成12年度 私立学校施設整備補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）

装置名	区分	事業経費	補助内定額
多元的病態血管組織機能解析装置	研究装置	84,000,000円	42,000,000円
超高速磁気共鳴による生体内代謝・動態・機能解析装置	研究装置	213,851,400円	106,925,000円

■平成13年度 文部省科学研究費補助金申請状況

平成13年度科学研究費補助金には、10月31日（火）の受付終了までに、計197件の申請がありました。（内訳は右図のとおり）

研究種目等	審査区分等	件数
特定領域研究(A)	公募	2
特定領域研究(C)	公募(一般枠)	2
基盤研究(A)	一般	1
基盤研究(B)	一般	23
	展開研究	9
基盤研究(C)	一般	87
	企画調査	2
萌芽的研究		35
奨励研究(A)		36
計		197

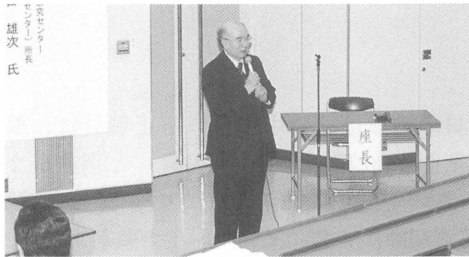
■第9回(平成12年度)研究奨励助成[(財)小野医学研究財団]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
プロスタノイド受容体欠損マウスを用いた痛みの伝達機構の解明	麻酔科学 助手・南敏明	100万円

■第20回(平成12年度)調査研究助成金[鈴木謙三記念(財)医科学応用研究財団]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
高血圧自然発症ラット(SHR)の勃起機能に対する各種降圧剤の影響について	泌尿器科学 助手・岩本勇作	100万円

■国際交流シンポジウム開催



中山国際医学医療交流センター主催のシンポジウム『国際交流シンポジウム ～21世紀に向けた大阪医科大学の国際交流～』が、12月13日（水）午後4時から6時30分まで臨床第1講堂において中山会長ご出席のもと開催されました。

【記念講演】

『WHOから見た国際交流と国際協力について』
WHO健康開発総合研究センター
（WHO神戸センター）所長
川口 雄次



【記念講演】

『北京日中友好病院と国際医療協力』
北京中日友好病院 JICA長期派遣専門家
本学 客員教授
酒谷 薫



■平成12年度 医学会秋季学術講演会

平成12年度秋季学術講演会が、下記のとおり開催されました。

日 時 平成12年11月15日（水）午後2時30分～5時
場 所 臨床第1講堂

【記念講演】

『21世紀の医療をめざしたHGFによる再生医学の実践』
大阪大学大学院 医学系研究科
バイオメディカル教育研究センター教授
中村 敏一



職場紹介

薬剤部

大阪医科大学附属病院薬剤部は、外見上平成12年10月の臨床治験センター活動開始によって大きく変わりました。従来の調剤業務は地下1階に集約され、1階では院内処方薬の患者様への交付と治験活動が行われています。しかしこの流れは平成11年4月からの薬剤部業務見直しの積み上げの結果であり、最大の変化は同年8月からの全診療科における院外処方の採用であります。当時の佐々木病院長の指示の下に各臨床科のご協力により、大した混乱もなく、現在では院外処方箋発行率は70%後半を維持するに至っています。これは本学の職員や家族の病院利用を考慮すれば、実に90%に達する驚異的な数字と考えられます。院外処方の進展に伴い薬剤部の業務は、病棟薬剤師業務の充実、臨床治験センターの立ち上げなど、時代に即した方向性を求めて活動を開始したのが現状です。

部員の構成は、竹中部長以下正職員は、薬剤師が30名（現在3名欠員）と事務員2名で、この他に平成12年4月より施行された臨床研修薬剤師が4名、又アルバイト薬剤師4名、アルバイト事務員が3名となっています。各部所の業務内容を以下に紹介します。

薬務

- ・麻薬に関する事務管理（医師の麻薬免許届や印鑑などの管理）
- ・薬剤部の庶務的業務

物流部門

- ・医薬品の発注、受注
- ・医薬品の物流関連情報の管理
- ・病棟、外来の薬品請求及び常置薬の払い出し
- ・特殊製剤を含めた院内製剤の調製

医薬品情報管理室

- ・医薬品の情報収集整理と薬剤部内外への医



薬品情報の伝達

- ・薬事委員会の資料作成
- ・申請された特殊製剤の検討
- ・薬物血中濃度の測定

患者サービス部門

- ・入院・外来患者様のお薬の調剤
- ・患者様からのお薬にかかわる相談の受付
- ・院外処方箋にかかわる業務（院外処方箋の監査、院外保険調剤薬局からの疑義照会FAXの対応）
- ・病棟における薬剤管理指導業務（現在6病棟で行っている）
- ・臨床治験センターの日常業務の一部（従来通り薬剤部で行っている）

その他の活動として、平成11年8月よりほぼ1ヵ月に1回のペースで、薬剤部内の出来事や話題を掲載した薬剤部ニュースを発行しています。又、平成12年4月より毎月第3土曜日の午後2時からは、本学医師と薬剤師によ

る市民講座を企画・運用しています。この市民講座は毎回好評を博しており、受講された方の中には、本院での治療を希望され実際に受診された方もおられます。さらに、9月からは大阪医科大学公開講座として、評価をうけております。

また、臨床薬剤師の卒後教育の方向性を踏まえて、臨床研修薬剤師の制度を整備しました。これは、大学卒業後2年間、より深く薬剤師業務の研修を受ける制度で、平成13年4月からも3名の研修生が来る予定です。

それ以外にも、薬学部学生の実習施設として、大学院、学部学生の研修を積極的に引き受けており、将来の優秀な薬剤師の育成に少しでも役立つよう全力投球しております。

現在の薬剤部の置かれている環境は、厳しいものではありませんが、我々大阪医科大学附属病院薬剤部は、医療チームの一員として、これからも患者様のQOLの向上と、学術活動の充実に努めていきたいと思っております。

（文責：竹中）

次の100年

脳神経外科学教室 講師 宮武 伸一

20世紀に入り医学界には大きな革命が起こった。数えて見よう。まず画像診断。レントゲン撮影、CTスキャン、MRI等誰が見ても分かる画像である。ウーンなんでも分かる。薬剤では、抗生物質、各種ホルモン製剤、はたまたサイトカイン、ウーンどんな病気も治りそう。でも癌は治らなかったし、動脈硬化は止められない。私の専門分野でも、起こってしまった脳梗塞はどうしようもなかった。

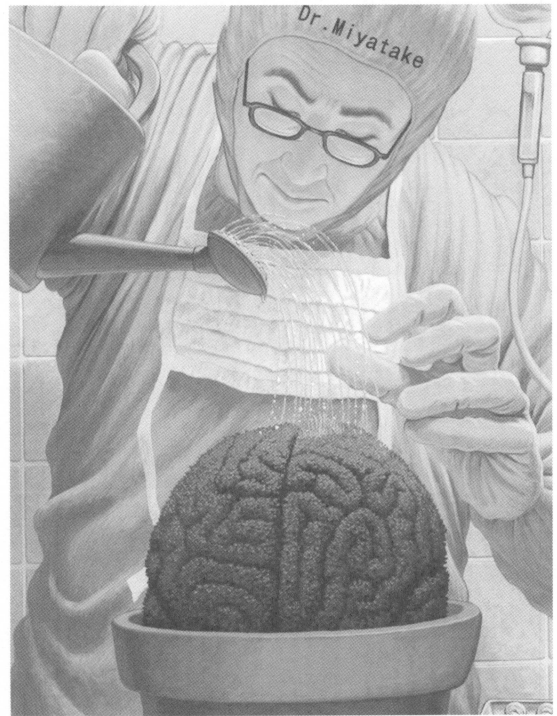
次の100年に起こる事を、独断と偏見で予想してみる。笑わないでつき合ってください。大きな柱は遺伝子治療と再生医学。

まずは遺伝子の話。In vitroでは、今でもほとんどすべての細胞に100%、お好みの遺伝子が入ります。でも、in vivo ではせいぜい目的の細胞の10%。これで何ができる。せいぜい単一酵素の欠損位なら、今でも遺伝子治療で治ります。大事なことはどんな遺伝子を導入する？ 夢と思われていた、ヒトゲノムの解読が2000年に終わってしまった。でもそれはA,T,G,C という4つの文字の配列がわかっただけ。この組み合わせにどのような意味があるのか、ほとんど分かっていない。これからである。でも信じます。癌も直るし、生活習慣病もきつとコントロールできると。

次に再生医学。20世紀の最後に移植医学が多いに進歩した。これも再生医学の幕開けと言えるだろう。すでに日本でも何人かの患者さんが命の贈り物を受けて、病気を克服した。でもいまは、生体であれ、死体であれ、別の個体からの臓器もしくは細胞移植である。ところが最近、マウスでもヒトでも embryonic stem cell (ES細胞) が樹立された。われわれの体はもともと一個の受精卵からあらゆる細胞ができたものだ。分化の初期にすべての細胞に分化できる stem cell が存在し、これがすべての臓器を形成する訳である。この細胞が出来たのだ。実際に、最近ある研究会で、stem cell から心筋細胞が分化して、ビートするところをビデオで見せていただき、いたく感動し

た。どんな細胞も作れそう。脳梗塞も神経幹細胞もしくはES細胞から分化させた神経細胞の移植で治療ができそうだ。ただどのようにすれば目的の細胞に分化させられるのか、ここが問題だ。でもクローン羊ができるのだ。まず自分のクローン細胞を冷凍しておき、いざとなったら(もし肺癌にでもなれば)、その細胞から肺を作り、移植しようかな。でもまた同じ癌遺伝子で肺癌ができるのだろうか？

みなさん、夢物語につき合ってくださいありがとうございます。さしあたり、僕は脳腫瘍、動脈硬化、神経変性疾患をウイルスでなおしてみるつもりです。どこまでできるかな。乞う、ご期待。ちなみに添付の漫画は、脳神経外科医(私?)が神経栄養因子をふりかけ、神経幹細胞より脳を栽培しているところです。



ベトナム社会主義共和国・ホーチミン(旧サイゴン)市パスツール研究所等視察

微生物学教室 教授 佐野 浩一

去る平成12年11月18日—23日、国際電子顕微鏡技術交流会(NGO)の村中浩二代表(浜松医科大学)と越国ポリオ研究所Nguyen Van Man所長によって、ホーチミン市パスツール研究所で開催された第5回越日電子顕微鏡技術交流会における講演の招請を受け、また、同市パスツール研究所(1891年、BCGの開発者である Albert Calmettにより設立、胸像写真)等の視察を兼ねて、越国ホーチミン市を訪れた。JICAのエイズ/性感染症フィリピンプロジェクト調査派遣員以外には、NGOではUCLA Forgartyエイズプログラムブラジル派



ホーチミン市パスツール研究所設立者でBCGワクチンの開発者でもあるDr. Albert Calmetteの胸像。後ろにLouis Pasteurの胸像が見える。

遣員の経験ぐらいしかない私にとっては久々に元気の出る出張であった。

同時期にオランダのハーグでは地球温暖化防止の会議が開催されており世界から注目されていた。しかし、ベトナムでは、戦争終結25周年のこの年に、米国大統領がハノイとサイゴンを訪れるという歴史的な日を迎え、地球温暖化防止どころではない雰囲気であった。海外出張にはカメラを持参しない私も今回は使い捨てカメラを購入し、大統領が乗っているらしい黒塗りのリムジンと買い物をしている大統領令嬢とおぼしき人影を撮影した。

初日は移動と打ち合わせ、二日目は会場の準備後、クリントン大統領の出迎えと見送りの衆となり、三日目には交流会で「微生物学における電子顕微鏡の重要性」と題して講演した。四日目には

国立農業大学・国立農事試験場・パスツール研究所・第175軍病院(院内の情報収集は厳しく規制された)を視察した。村中団長の言によれば、ホーチミン市はベトナムの中でも特異な都市で、首都ハノイでさえこれほどの外国資本と観光客は入っていないとのことであった。越国はドイモイ政策で先進資本主義国からいわゆる先端技術を農業や工業に優先的に導入し、経済的に成長しようとしたため、医学・医療分野は発展は中途半端であるように感じた。一方、先進諸国は今までの無秩序な発展の反省から、地球温暖化問題の解決や遺伝子組換え作物の規制などに取り組み始めたため、越国の工業製品や遺伝子組換え作物など先端技術の産物が先進諸国では受け入れられない可能性が出てきた。現在、越国は彼らの市場である先進諸国に通用するようなものを作ることに努力している。賢明な越国の人々は先進国の失敗を糧としながら、社会主義国家の利点を生かして発展しようとしている。

ところが、医学・医療分野では不幸なことに越国は先端技術の導入を急ぐあまり、先端技術を支



旧王宮では「ベトナム アジア祭2000」が開催されていた。

える基礎技術や学術研究に力を入れる余裕がなかったのである。その例をパスツール研究所にみることができた。パスツール研究所は基礎研究・疫学研究・感染症のアウトブレイク対策・感染症診断業務・ワクチン接種業務などを行っている。所内には当講座にないような最新鋭の核酸診断装置や抗原検出装置などが並んでいた。しかし、これらの診断の基礎となる病原微生物分離部門には安全キャビネットすらなく、私が学生のころに使っ

海外出張記 受賞 高槻ケーブルテレビ(CATV)が本学を紹介



旧王宮の傍らに展示されている戦車が砲身を王宮に向けていた。

たような木製ガラス張りのキャビネットが置かれていた。ある部門の主任の話を聞いていても、輸入の診断キットを用いてプロトコールに従った先端技術は使えるが、その技術の理論的な裏打ちが薄いような印象を受けた。トラブルが起こったときにどの程度対処できるのか疑問に思った。診断キットがないウイルス性下痢症の診断や疫学研究ができないのも、電子顕微鏡とその技術がないからであろう。この視察を通して、何故私が招請されたのかが初めて理解できたような気がした。

寂しく王宮に砲身を向けており、一人の日本人が感慨深げに使い捨てカメラを向けていた。マラリア・トラコーマ・下痢症が三大感染症である越国に周辺国から確実にHIV（エイズウイルス）が侵淫している。侵淫の様相はHIVがアウトブレイクしたタイ国の初期に似ている。国家の発展のために求められる労働人口を確保するためにも、貧困対策と感染症対策を急がなければならない時期に来ていることにMan所長は気付いているようであった。

■日本臨床化学会奨励賞受賞

学術・技術の進歩に寄与しうる極めて優秀な論文に贈られる日本臨床化学会奨励賞の授賞式が、10月30日（月）に仙台で開催された第40回日本臨床化学会年会の中で行われ、病態検査学教室の宮崎彩子助手が受賞されました。

論文名 「HbA1c測定値に及ぼす異常Hbの影響：質量分析法による36症例の検討」



■高槻ケーブルテレビ(CATV)が本学を紹介

高槻市全域と島本町の一部をサービスエリアとしているケーブルテレビ(CATV)会社の高槻ケーブルネットワークが番組内のコーナー「高槻点描」で本学の沿革や概要を紹介、1月10日(水)から1月24日(水)まで繰り返し放映されました。



同和教育特別講演会



同和教育に関する特別講義が、12月6日（水）午後2時40分から、『医療と人権 —プライバシーを中心に—』をテーマに平野 武龍谷大学法学部教授を講師にお招きし、臨床第1講堂にて開催されました。満場の来聴者は皆熱心に耳を傾けていました。

年賀交歓会開催



恒例の年賀交歓会が、1月4日（木）午後1時から第9会議室において、理事長、学長、病院長をはじめ、教職員約100名が出席して開催されました。

平成12年度 実験動物慰霊祭



平成12年度実験動物慰霊祭が、12月2日（土）午後1時から講義実習棟第1講義室において、たくさんの関係者および教職員の参列のもと執り行われました。

関連病院長会総会開催



平成12年度大阪医科大学関連病院長会総会が、11月21日（火）午後3時から、いばらき京都ホテルにおいて、島田学長、植木病院長、阿部学生部長はじめ各教授、各関連病院長ら関係者約100名の出席のもと開催されました。

総会では、島田学長の開会挨拶に続き、植木病院長の平成12年度経過報告他が行われた後、下記のとおり特別講演が行われました。

[特別講演]

『21世紀の病院経営戦略

—病院はどう変わるか—』

高知県・高知市病院組合

理事 瀬戸山元一

会議・行事予定

■主要会議とその主な議題

11月1日から1月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(11月14日)

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学顧問の委嘱について
 2. 新阿武山病院の無償譲渡について
 3. 平成13年度入学生に対する寄附金募集について
- #### —報告事項—

1. 日中友好病院長表敬訪問について
2. 経営専門委員会報告
3. 日本私立医科大学協会理事会報告
4. LD（学習障害児）センターの設置について
5. その他（学長・病院長報告）

(12月5日)

—審議事項—

1. 平成13年度予算編成について
2. 大阪医科大学関連病院並びに関連診療科に関する規程の制定について
3. 大阪医科大学附属看護専門学校学則の一部改正について
4. LDセンターの設置について
5. 医用材料およびその他物品の新運用案について

—報告事項—

1. 平成12年度上半期収支状況報告
2. 経営専門委員会報告
3. 日本私立医科大学協会理事会報告
4. その他（学長・病院長報告）

(1月16日)

—審議事項—

1. 日本鉄道建設公団所有地購入に係る借入金について
2. 平成12年度補正予算について
3. 大阪医科大学主関連病院並びに主関連診療科に関する規程の制定について
4. 大阪医科大学臨床教育教授及び臨床教育助教授規程の制定について
5. 大阪医科大学臨床教育協力機関協定規程の制定について

—報告事項—

1. 施設計画事業本部跡地利用部門の設置について
2. 経営専門委員会報告
3. その他（学長報告）

[評議員会]

(1月16日)

—審議事項—

1. 議長の選出について
2. 日本鉄道建設公団所有地の購入について
3. 日本鉄道建設公団所有地購入に係る借入金について
4. 平成12年度補正予算について

—報告事項—

1. 高槻YMCAの土地・建物購入について

[教授会]

(11月8日)

1. 人事に関する件（助教授の任用他）
2. 第2学年学生の復学願出に関する件
3. その他

- 1) 「良医育成体制の在り方；臨床の視点より」
委員会委員長並びに委員の追加委嘱について
- 2) 保健管理室運営委員会委員の変更について
- 3) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について

(11月22日)

1. 人事に関する件（客員教授の委嘱他）
2. 学則の一部変更に関する件
3. 平成13年度授業時間割編成に関する件
4. その他

- 1) 救急医療部の設立について
- 2) 大阪医科大学関連病院並びに関連診療科に関する規程（案）について
- 3) 大学等における遺伝子解析研究に係る倫理問題への本学の対応について
- 4) 平成12年度奨学生（本学・仁泉会）の推薦に関する件

(12月6日)

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 大阪医科大学主要関連病院並びに主要関連診療科に関する規程（案）に関する件
3. その他
 - 1) 平成13年度入学試験当日の総監督及び総監督補佐の委嘱について
 - 2) 自己点検・評価組織委員会小委員会（附属病院部会）委員の追加委嘱について
 - 3) 救急医療部部長の設置について

(12月20日)

1. 人事に関する件（講師の任用他）

2. 第5学年仮進級者の前期試験不合格科目の合否判定に関する件	19日(月)	臨時教授会 医学部学科試験合格者発表
3. その他	23日(金)	医学部入学試験〔面接・小論文・健康診断〕(学科試験合格者対象)
1) 自己点検・評価組織委員会小委員会(附属病院部会)委員の追加委嘱について	24日(土)	教授会・大学院医学研究科委員会 医学部入試合格者発表
2) 大阪医科大学主要関連病院並びに主要関連診療科に関する規程(案)に関する件	25日(日)	第90回看護婦国家試験
(1月10日)	27日(火)	理事研究会
1. 人事に関する件(学内講師の任用)	3月7日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
2. 第6学年卒業合否判定に関する件	8日(木)	大学院医学研究科入試合格者発表
3. 救急医療部担当教授選考に関する件	9日(金)	看護専門学校卒業式
(1月24日)	10日(土)	第1・3学年春季休業
1. 人事に関する件(学内講師の任用他)	13日(火)	理事会
2. その他	17日(土)	第2・5学年春季休業 第95回医師国家試験(19日まで)
1) 第3学年学生の休学願出について	21日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
2) 平成13年度入学試験関係資料	23日(金)	医学部・大学院卒業証書・学位記授与式
3) OSCE実行委員会委員の変更について		第4学年春季休業
4) 外科系OSCE委員会委員の変更について	30日(金)	第90回看護婦国家試験発表
[大学院医学研究科委員会]	31日(土)	理事会・評議員会
(11月8日)	4月2日(月)	臨時教授会
1. 第2学年学生の退学願出に関する件	3日(火)	入学宣誓式(医学部・大学院)
2. その他	4日(水)	第1学年オリエンテーション
1) バイオセーフティー実験室の運用について	5日(木)	新入学生外合宿(於亀岡ハイツ) (7日まで)
(12月6日)	7日(土)	第2学年オリエンテーション
1. 学位論文審査結果に基づく可(合)否決定に関する件	9日(月)	第1・3・4学年オリエンテーション 第2学年授業開始 第6学年臨床実習開始
(12月20日)	10日(火)	理事会
1. 第4学年学生の学外研修延長願に関する件		第5学年オリエンテーション 第1・3・4学年授業開始 看護専門学校入学式
(1月10日)	11日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会 第5学年授業開始
1. 学位論文提出のための語学試験成績の合否判定に関する件	24日(火)	理事研究会
(1月24日)	25日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会
1. 外国人の外国語(語学)試験の取扱に関する件	26日(木)	第95回医師国家試験合格発表
■主な行事日程表		
2月1日から4月30日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。		
2月1日(木)	大学院医学研究科入学試験	(2日まで)
7日(水)	教授会・大学院医学研究科委員会	
9日(金)	医学部入学試験〔学科試験〕	(於関西大学)
13日(火)	理事会	

保健管理室からのお知らせ

■定期健康診断・生活習慣病健康診断を終えて

教職員定期健康診断・生活習慣病健康診断は、10/3（火）～10/17（火）まで8日間で実施しました。受検率は全体で89.3%で、昨年（89.1%）と大差はありませんでした。教員の受検率は昨年から60%を上回るようになりましたが、忙しさを理由に健診を受けられない先生方が多いのか、まだまだ健診への関心は低いように思われました。（表1、図1）

健診の風景では、久しぶりに測定したご自分の血圧に慌てておられる方の姿がありました。病院にしながら、健診のときくらいしか血圧を測られないようです。日頃から、もう少しご自分のからだのことを気にされてもよいのでは…と感じました。

有所見率は全体では46.7%でしたが、年齢別にみると血液検査をした35歳で69.2%、40歳～49歳は76.4%、50歳以上では90%を超える有所見率でした。（表2）

男女とも脂質値の有所見が高く50歳以上で50%を超えています。男性は脂質値について肝機能の有所見が高く、女性は貧血の所見が目立ちました。（図2）

職種別の有所見率は図3をご覧ください。

表1 2000年度 健康診断受検率

職 種	対象者(人)	受検者数(人)			受検率(%)
		生活習慣	一般	合計	
教員	314	143	57	200	63.7%
事務員	215	102	102	204	94.9%
技術員	203	98	69	167	82.3%
技能員	48	27	18	45	93.8%
労務員	53	52	0	52	98.1%
看護職	73	57	16	73	100.0%
看護婦	627	152	475	627	100.0%
看護学校教員	15	7	7	14	93.3%
総計	1548	638	744	1382	89.3%

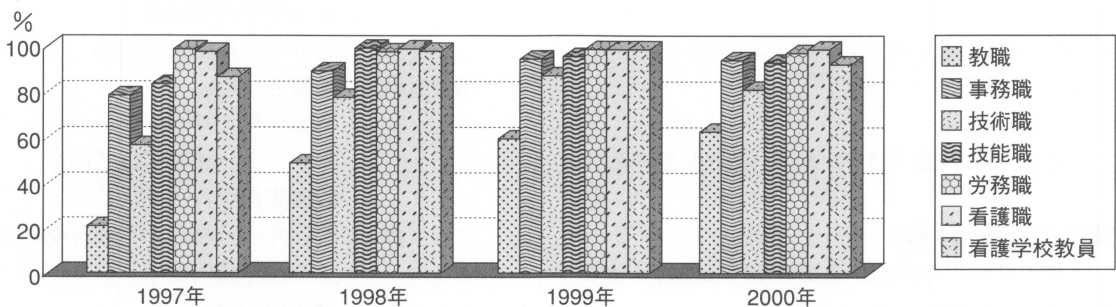


図1 年度別受検率

表2 性別 年代別 有所見率（総合判定における）

年齢	男性		女性		全体	
	受検者	有所見者	受検者	有所見者	受検者	有所見者
29歳以下(25歳除く)	31	9 (29.0)	451	61 (13.5)	482	70 (14.5)
25歳	2	2 (100.0)	70	32 (45.7)	72	34 (47.2)
30—39歳(35歳除く)	90	35 (38.9)	172	28 (16.3)	262	63 (24.0)
35歳	12	11 (91.7)	27	16 (59.3)	39	27 (69.2)
40—49歳	131	109 (83.2)	132	92 (69.7)	263	201 (76.4)
50—59歳	76	68 (89.5)	116	111 (95.7)	192	179 (93.2)
60歳以上	39	38 (97.4)	33	33 (100.0)	72	71 (98.6)
総計	381	272 (71.4)	1001	373 (37.3)	1382	645 (46.7)

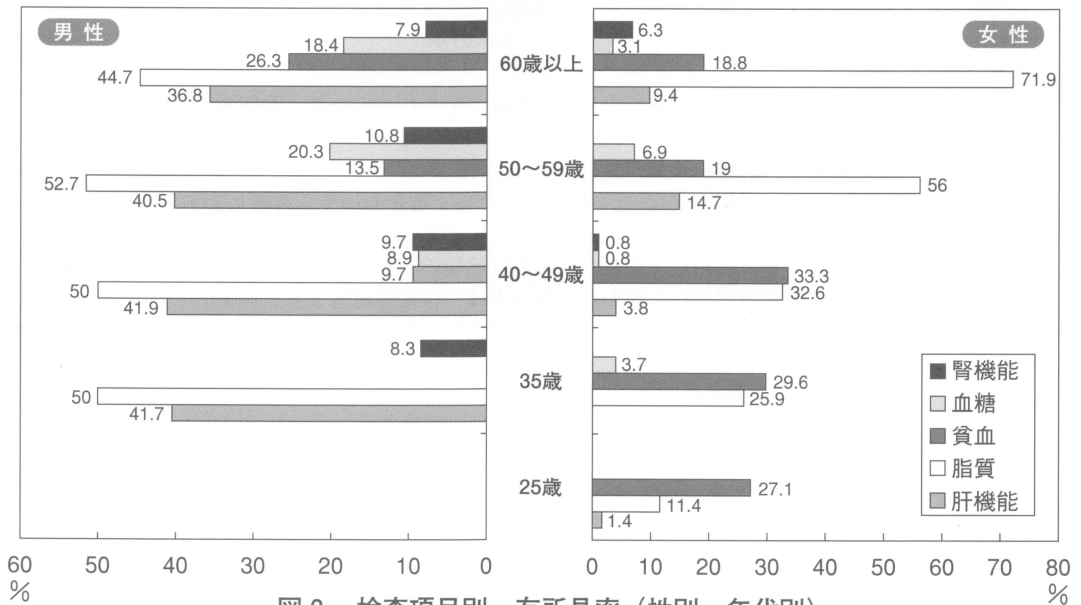


図2 検査項目別 有所見率（性別・年代別）

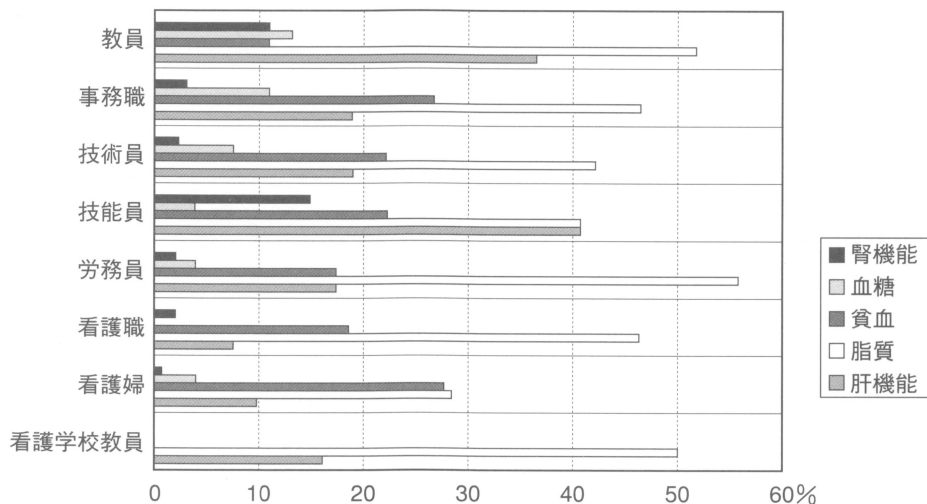


図3 検査項目別 有所見率（職種別）

保健管理室からのお知らせ

健診結果通知で各個人にコメントをお書きしました。食事・運動などで改善がみられるように、再検査を健診から3ヶ月後（1月下旬）に実施しています。みなさん、何かしら気にされていたのではないのでしょうか。健康増進・疾病予防は、まず自分のからだの状態を知ることから始まります。今回だけでなく何年も健診を受けられていない方、健診を受けずにご家族の方は心配されていませんか？血液検査だけでなく、トータルに見られるよう毎年定期健診を受けましょう。

最後に、健診時にご協力いただきました看護部、中央検査部、放射線科をはじめ各部署の方々に感謝致します。ありがとうございました。

掲 示 板

1. B型肝炎ウイルス検査・抗体確認検査、HCV抗体確認検査実施予定

日時 平成13年4月18日(水)・19日(木)午後2時～3時30分

場所 第10会議室

*申し込み制となりますので、各部署に申し込み用紙が配られましたら、希望者は記入し期限までに保健管理室に提出して下さい。(3月中旬予定)

2. ツベルクリン反応検査(2段階法)実施予定

*4月に予定しています(詳細未定)。近くなりましたら文書をもってご連絡します。

*2段階法でデータを記録しておくことを目的としていますので、昨年2段階法で検査を受けられた方は対象外となります。しかし、陰性だった方は感染の有無の確認のため、今年も1回の検査を受けてください。自分はどうなのかわからない方は、保健管理室までご連絡下さい。

◆大阪医科大学俳句会（九／十／十一月）

美術館二つ向き合ひ美術の秋

塚本務人

敬老の日に老船頭の世話になる

今井雄介

安産に男女の差なし冬支度

古川洋子

文楽のはねて師走や橋づくし

中川一成

役終へて冬日を浴びる木偶の首

梶野興三

手鞠麩に巻き込む恋慕近松忌

梶野香代子

霜降やあの世から垂る自在鉤

奥田筆子

実石榴は爆ぜキリストの足に傷

吉田孝江

シナリオは真赤にはせぬ酔芙蓉

飯塚久子

大道芸だんだん寂し冬茜

美濃 眞

道行きを送る鐘の音十夜かな

宮田恵江

水嵩のありしあと見ゆ秋の蝶

山崎隆司

朝霧や車輪が先に現はれり

(投稿) 宮脇芳美



投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2-41
大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

お詫びと訂正

前回発行の46号に一部誤りがありましたので、
お詫びし訂正致します。

P.4（人事）

委嘱の項の「病院経営検討委員会委員」は
「病院経営検討委員会委員長」の誤りでした。



本館・図書館4階ラウンジ

本館・図書館の4階部分には教授会を開催している第1会議室、6年生の自学・自習室（12室）と豪華な仕様のラウンジが設置されており、6年生の憩いのスペースとして利用されています。

大阪医科大学70年史頒布のご案内

50年史以降の20年間の本学の歴史を収めた大阪医科大学70年史は只今1部4000円（税・送料込）にて販売中です。

販売方法 窓口販売 本学総務課窓口にて代金をお支払い下さい。

通信販売 次の1)、2)いずれかの方法をお選び下さい。

1) 現金書留で下記宛先に代金を送付して下さい。その際、必ず送付先住所、氏名、電話番号、購入部数を明記したメモを同封して下さい。

2) ハガキに送付先住所、氏名、電話番号、購入部数をお書きのうえ、下記宛先にお送り頂くとともに最寄りの郵便局で代金を払込んで下さい。

※その際、払込取扱票の各項目には以下のとおり記載して下さい。

口座番号 00940-8-319151

加入者名 学校法人大阪医科大学

通信欄 大阪医科大学70年史代金

(払込人住所氏名は必ずご記入下さい。)

なお、70年史は、代金の払込が確認された段階で発送致します。

宛先 〒569-8686 高槻市大学町2番7号 大阪医科大学総務部総務課
「70年史販売係」宛

大阪医科大学学報 第47号

発行年月 平成13年2月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>